



なごや「聖歌」だより 1月号'10

「新聖堂」成聖式にむけて 3 「天使とともに」

求む、我等の入るに伴ふて、
我等とともに務め、爾の至善を讃栄する
聖神使等の入るを致させ給え。

主教が不朽体を頭上に戴き聖堂に入ってゆくとき唱える祝文です。聖体礼儀の小聖入でも唱えます。

成聖式とは、新しい建物を神の住まいとし、ハリストスの立てた機密の晩餐を行なうための祭壇をそなえる儀式です。祭壇が整ったあと、十字行を行い、聖人の不朽体とともに入ってゆきます。聖堂は礼拝の中で、地上の空間でありながら、時間も空間も超えた永遠の国、神の国となります。天と地が結ばれます。私たちとともに天使が入ってゆきます。

なぜ正教会が立派な聖堂を建て、イコンで飾り、美しい聖歌を歌い、荘厳な儀式を行うのか、理由がここに 있습니다。ビザンティンでもロシアでも、人々は神から与えられた能力を精一杯使い、美しい儀式を作り出そうとしてきました。聖堂は街のもっともよい場所に立ち、贅をこらした装飾がほどされ、美しい聖歌が歌われました。

緑豊かな鶴舞の小高い丘に白く輝く聖堂が立ちました。木を基調にした内装も整い、シャンデリア、イコンも飾られます。ここ数ヶ月、聖歌隊の皆さんは練習を重ね、格段に上達してきました。用意は整いました。しかしそれだけでは不十分です。

聖神が働かなければ神を讃美できません。「讃美」の歌を歌わせてくださいと、神に祈りましょう。そこに集う300人の声が天使たち、聖人たちと一つになります。世界各地から応援してくれた仲間たち、名古屋の地に正教の種を蒔き育てた諸先輩、聖堂の完成を待ち望みながら先に永眠した兄弟姉妹の声も、ともにあります。



【聖堂成聖のトロパリ】

「爾は上の穹蒼(おおぞら)の美のごとく、
爾の光栄の聖なる住居の下なる美しき
をともに顕せり、
衆人の生命、および復活たる主よ、
生神女によりてこれを世世に堅固にし、
そのうちに絶えず我等が何時に奉る祈
禱を容れ給え」

(口語訳) あなたは天の大空の美のごとく、
あなたの光栄の聖なる住まいである、この教会の美を顕しました。あなたは全人類のいのち、復活の主です。生神女によって、この教会を永遠に堅固にし、そのなかで私たちが献げる祈禱を受け入れてください。

聖歌練習

♪名古屋 1月の練習日程-

1月3日(日) 聖体礼儀後
1月6日(水) 13:00から

新聖堂でリハーサルを行います。仕上げ工事、外構工事が行われているので、汚れてもかまわない服装でお越しください。スリッパをご用意ください。☆楽譜の訂正があります。成聖式P1、聖体礼儀P4、P34。教会に訂正コピーが用意してあります。

♪半田: 今月はお休み

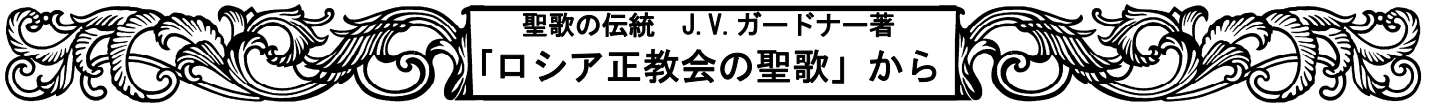
1月13日は名古屋の旧聖堂(山花町)で典院セラフィム神父(ワラーム修道院)とともに聖体礼儀を行います。

ズナメニイ研究会 紹介

12月と1月は成聖式準備のためお休み

1月の指揮当番

3日 エレナ広石 10日 聖体礼儀 マリア松島
10日 晩禱 ピーメン松島、
11日 成聖式、マリア松島、エレナ広石
31日 エレナ広石



+++正教会聖歌の入門書として今も広く読まれている本です。日本の方にもわかりやすいように訳注や解説を加えてご紹介しています。+++

1. トロバリ (讃詞) その1

τὸ τροπάριον; тропари

トロバリは単節(stanza)の短い歌で、その日その祈祷のテーマを要約します。

(例) 主の降誕のトロバリ (4 調)

ハリストス我が神よ、
爾の降誕は世界に智慧の光を照らせり、
此れに由りて星に勤むる者は星に教えられて、
爾義の日を拝み、爾上よりの東を覚れり、
主よ、光榮は爾に帰す。

(例) 復活祭のトロバリ

ハリストス 死より復活し、
死を以て死を滅ぼし、
墓に在る者に生命を賜えり。

トロバリは一日の礼拝サイクルの中で、繰り返して歌われたり、読まれたりします。早課の場合のように、同じ課の中で繰り返されることもあります。晩課では終了間際の発放詞の直前に歌われます。早課では冒頭と後半の大詠頌後に歌われます。聖体礼儀では小聖入の後に歌われますが、主の大祭では第3アンティフォンとして、聖詠の句と交互にトロバリを繰り返します。

ステヒラ同様トロバリも聖詠の句に挿入して歌われますが、ステヒラの場合は次々と異なる歌が歌われるのに対し、第3アンティフォンでトロバリを歌う場合は、聖詠の句と交互に同じトロバリを繰り返します。

逆に、同じ聖詠の句を繰り返し、異なるトロバリを歌うこともあります。たとえば、主日早課と死者のための早課で歌われる「復活のトロバリ」(エフロギタリア)*です。118聖詠(第17カフィズマ・ネポロチニ)の誦読が終わった後、第118聖詠の第12句「主よ、爾は崇め讃めらる、爾の律を我に訓え給え」を冠詞として付して五個のトロバリを歌います。

まれに前述のステヒラ(12月号掲載、4. リティヤのステヒラ)同様、祈祷書にトロバリと表示された複数のトロバリが、聖詠の句をはさまずに続けて

歌われることがあります。例としては神現祭の「水の祝福」へ向かう行進の歌、小聖水式の歌などです。こういう場合、トロバリとステヒラの区別は曖昧で、ステヒラ的な性格を持ったトロバリといえます。(このほか例外的なトロバリとして、カノンの歌頌中のトロバリがあります。後述)

トロバリと記された同じ歌が、前後関係や祈祷の式順によって別の箇所では別の名前で示されることもあります。たとえばフォマの主日のトロバリ「ハリストス主よ、墓は封ぜられて……(7調)」は、7調主日早課では、第2カフィズマ後のセダレン7調と記載されており、他の箇所ではトロバリと記されています。

トロバリは詩の形式からの名称で、セダレンは祈祷の式順上の位置、またその時の会衆の姿勢からの名称です。セダレンとは「座る」の意味ですが、セダレンとは、早課のカフィズマの後とカノンの第3歌頌のあとで歌われるトロバリと定義づけることができます。

内容から分類すると、生神女讃詞、十字架生神女讃詞、致命者讃詞などがあり、ドグマティックを除けば前月号のステヒラ(6)の種類と同じ性格を持ちます。

晩課の終わりに歌われるその日のトロバリは発放讃詞(dismissal troparion; ἀπολυτικίον; отпустительный)または退出のトロバリと呼ばれ、特別に重要視されます。

記憶すべき出来事や聖人の記憶が複数重なった場合は、複数のトロバリを組み合わせて歌います。

トロバリの音楽付けはおおむねシラビック***です。

注*ギリシア語でΑρωμοί。スラブ語непорочны。ラテン語ではBeati immaculai、ギリシア語で第118聖詠第12句「主よ、爾は崇め讃めらる」がεὐλογητὸς εἰς Κύριεで始まることからこれらのトロバリをεὐλογητάριαと呼ぶ。

訳注**「発放詞」は司祭の「高声」と混同されることがあるが、各課の終わりの祈り。「発放」とは退出、派遣の意。

訳注***1音節に1つの音を当てはめて歌うのがシラビック、2-3の音を当てはめるのがネウマティック、それ以上たくさん音を当てはめた歌い方がメリスマティック。

Johan von Gardner, *Russian Church Singing*, SVS

ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が聞けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>
詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 Liturgia

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料